

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第6部門第2区分
【発行日】平成19年9月27日(2007.9.27)

【公開番号】特開2006-84654(P2006-84654A)
【公開日】平成18年3月30日(2006.3.30)
【年通号数】公開・登録公報2006-013
【出願番号】特願2004-268109(P2004-268109)
【国際特許分類】

G 0 2 B 7/02 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B	7/02	Z
G 0 2 B	7/02	A
G 0 2 B	7/02	C

【手続補正書】
【提出日】平成19年8月8日(2007.8.8)
【手続補正1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0006
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0006】

ところで、上記特許文献1に記載のレンズ系の光軸調整装置では、レンズを偏心調整させ、UV照射ユニットによりUV硬化型接着剤を硬化させ、鏡筒とレンズとを固定保持するような構成及び方法になっている。

しかしながら、UV硬化型接着剤に関わらず、接着剤全般に共通することであるが接着剤は硬化段階で収縮が発生するという問題がある。この収縮により調整された鏡筒とレンズとにはミクロンオーダーの偏心が生じてしまう。この偏心が規格内に収まれば良いが、外れてしまう場合は偏心不良となってしまう。

また、最近の技術動向として、被調整レンズの小型化という流れがある。小型化により要求される光学性能も厳しくなり、被調整レンズにはミクロンオーダーの偏心精度が求められている。このような状況の中で、従来のレンズ系光軸調整装置及び調整方法では、この要求精度を満足することは難しい。